

4. 教育支援ボランティア活動

教育支援ボランティア活動とは、学生が幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校やその他の教育関係機関で、子どもたちの教育の補助・支援を行ったり教員の業務の補助をしたりすることである。それは、学校や教育機関などの教育活動を支えるための活動であることはもちろんだが、参加する学生にとっても、実践的な場における体験を通して学内での学びを深めたり、自己を見つめ直したりすることのできるたいへん貴重な活動である。

本センターは、水戸市を中心とした茨城県内すべての学校、教育機関を対象にした教育支援ボランティア活動について、各学校や教育機関との連絡・調整、学生への周知を行っている。教育学部だけでなくすべての学部の学生がその参加対象であり、幼稚園から高等学校あるいは特別支援学校というように校種、活動場所、活動内容も多様である。

以下が令和5年度の取組状況である。

(1) 教育支援ボランティア活動全体の取組状況

今年度は、5月から新型コロナウイルス感染症が5類になり、特別な制限を設けずにボランティア募集を開始した。学生がボランティア活動に臨む際は、当センターが定めた心構えや準備等の確認をmanabaで実施してから取り組ませるようにした。

以下の表は、令和5年度の教育支援ボランティア活動全体の取組状況である。水戸市学校支援活動への派遣件数は52件で、昨年度よりもわずかではあるが増えている。活動に参加した学生の数（活動延べ人数）は129人で、これも昨年度よりも大きく増加した。茨城県内の教育支援ボランティア活動への派遣件数は26件、活動延べ人数は118人であった。高等学校ボランティアは新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度までは実施を控えていたが、今年度から実施を再開し、派遣件数は2件であった。今年度活動に参加した延べ人数は261人で、昨年度よりも約20人増加した。

令和5年度 教育支援ボランティア活動状況

活動名	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
水戸市学校支援活動	229	52	129
県内教育支援ボランティア活動	37	26	118
高校ボランティア活動	2	2	14
合計	268	49	261

学部別参加学生の延べ人数

- 教育学部：153人
- 人文社会科学部：6人
- 理学部：9人
- 農学部：1人
- 教育学研究科：7人

(2) 水戸市学校支援活動

昨年度活動に参加した延べ人数は97人であったが、今年度はさらに参加者が増え、全体では129人になった。

令和5年度 水戸市学校支援活動状況

派遣先	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
幼稚園	15	1	2
小学校	183	39	102
義務教育学校	4	0	0
中学校	27	12	25
合計	229	52	129

依頼された支援活動及び実際に学生が参加した活動内容の詳細については、17頁以降の通りである。また、水戸市教育委員会による報告書も掲載する。

(3) 茨城県内教育支援ボランティア活動

今年度も多くの学校や教育関係機関からの依頼があった。「理科観察実験アシスタント事業」に12人、水戸市社会福祉協議会が募集した「子どもの学習支援事業」には24名の参加があった。

令和5年度 茨城県内教育支援ボランティア活動状況

派遣先	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
学校関係(高校含む)	23	14	73
教育委員会関係	8	8	29
社会福祉協議会	2	2	24
その他	6	4	6
合計	39	28	132

依頼された支援活動及び実際に学生が参加した活動内容の詳細については、47頁以降に示す通りである。

(4) 高等学校ボランティア活動

令和5年度 高校ボランティア活動状況

活動名	支援依頼件数	派遣件数	活動延べ人数
高校ボランティア活動	2	2	14

今年度から実施を再開した高等学校でのボランティア活動は、2件の依頼があり、いずれにも学生を派遣した。

(5) ボランティア活動に参加した学生の感想

○理科観察実験アシスタント

- ・実験を行う際に、様々なものを準備することがあり、それを僅かな授業準備の時間で行わなければいけないことが大変だと感じました。また、実際に実験の補助に付かせていただき、どのような実験で子どもたちがつまづきやすいのか、また実験結果からどのように考察をしているのかなどを自分の目で学ばせていただき、大変貴重な経験となりました。
- ・小学校での活動をしたことがなかったため、いい経験になった。また、小学校において理科専門の先生がとても少ないといったような内情を先生方とお話できたのがよかった。

○水戸市学校支援活動ボランティア

- ・今回保健室で就学時健康診断の補助をさせて頂いて、健康診断の流れを一部学ぶことが出来たと感じた。スムーズに健診を進めるためにはどのように誘導すべきかなど、様々なことを実際に補助してみて考えることが出来たと思う。また、予想していたこととは違う動きがあったり、今まで知らなかった養護教諭の役割があったりした。このように、今回のボランティアでは今後活かすべき多くの事を学ばせて頂くことが出来た。
- ・今回は認定保育園ということで、就学前の園児たちの姿を見ることができた。直接子供たちとかわることは無かったのだが、子ども達がおうちの人の前で一生懸命に頑張る姿を見て、とても暖かい気持ちになった。また年中さん・年少さんと年齢で2つの学年に分かれているのだが、たった1年でお兄さんお姉さんらしい姿に成長していて、感動した。運動会の準備などの活動を行ってみて、先生方の準備や計画（例えば子供たちに競技を教える、配置を覚える、競技に使う道具の用意など）が丁寧にされていることを実感した。また、子供たちに話しかける際の先生の様子を見させていただき、身振り手振り、そして表情などリアクションを大きくして子供たちに伝わりやすいようにしていることが分かった。協議の説明の中で、子どもに問いかける場面を作っており、自然と子どもが「参加したい！」と話を聞く姿勢を作れるような話し方の工夫がされていた。これらの話し方や雰囲気など参考にしていきたいと思った。

○学校行事の補助

- ・一期の実習で児童たちがキッズワールドに向けて一生懸命頑張ってきた過程を見ていたので、その集大成をボランティアで携わりながら見届けることができたことが大変嬉しかった。最後に児童たちのサポートができてやりがいがあったのと、自分が担当してきた児童の成長を見ることができ、とても有意義な時間であった。
- ・本番当日の教師の仕事というものを少し経験させて頂くことができ、特にロビー巡視で走っている児童に歩くように言葉かけをしたり、ホール内で騒いでしまう自動に声掛けをするなど貴重な体験をさせて頂けた。また、先生方はどういった言動をしているのか観察させて頂くこともでき、指示の仕方など、大変勉強になった。

○学習支援

- ・このボランティアでは、学習を教える立場として子どもと関わる機会が持て、良い経験となった。また、学習を教えることを通して、子どもたちの実態を知ることができた。勉強に真剣に取り組む子、いつも元気いっぱいの子、話しかけると沢山話してくれる子、と多様な子どもたちがいて楽しく活動ができた。将来教師になりたいと考えているため、このように子どもとの関わり方を学ぶことができ、嬉しく思う。ここで身に付けた子どもとのコミュニケーション力をこれからの学修や実習等に生かしていきたい。
- ・子供たち一人ひとりに様々な背景の家庭環境があり、その中でどのように子供たちと接していくのが難しさでもあり、楽しさでもあった。教育の世界に携わるとこのような子供たちは多く存在するため、今回のボランティアで関わる事が出来た子供たちや社会福祉協議会の方からはたくさんのことを学べたと思う。
- ・継続して児童と関わることで、実態を把握してよりその児童に合った支援の方法を模索することができて良かったです。短い期間ではありましたが、その中で多くの児童が成長する様子が見られたり、関係が深まったと実感できる場面もあつたりと、多くの学びを得ることが出来ました。教員採用試験の前にこのような貴重な体験ができたのはとても有難いことで、お忙しいなか快くボランティアを受け入れて頂いた大岩田小学校の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。教頭先生や学級担任の先生に事前に支援の対象となる児童の対応について説明をして頂いたおかげで、初日から余裕をもって児童と接することが出来ました。私自身も児童と積極的にコミュニケーションをとろうと心がけていましたが、それ以上に児童が親しみを持って接してくれて、毎週の活動が日々の楽しみになりました。この経験を生かして、今後も児童との関わり方や支援の方法について学んでいきたいと思えます。

○高校ボランティア活動

- ・高校の先生を目指している中で、高校の生徒と接することができる良い機会であった。教育学部でない分、このような機会が少ないので経験を積むことができるととても良かったと思う。
- ・受験のために毎週欠かさず来るような3年生から、部活帰りについでに勉強しに来る1・2年生といった勉強に対する意欲が様々な生徒たちに対して、学習のアプローチ方法を変化させるのが面白かった。真面目で一生懸命に取り組む生徒が多いイメージでこちら側も教えることに集中できてよかった。